

2020/11/22

(うと Q 世話し 否応なき risk-take 局面)

自分が書く記事の中に「7割経済」という言葉がよく出てきます。

経済学者さんが今コロナ禍で new normal 基準として述べているは大抵「9割経済」です。

それでも激震が起こり「大変だあ」と。

では何故自分の記事に出てくる減速経済の方が2割も少ないのか？

それは9割が「希望的観測値」で

7割の方が「そこ迄下げないと地球がもたない値」反対に言えば「人類が滅びたくなければそこまで下げなさいの値」だからです。

何を隠そう「地球温暖化抑止」から算出され得るであろう、値です。

それは同時に「virus 活発化抑止」の値でもあります（先般の記事で気候変動の大きな要因として雲雨の核になる物質を virus が作り出し過ぎる結果、気候変動が起きているとする仮説を指しております）

あと今一つ7割、即ち9割より2割少なく設定した算出根拠として

9割+2割=11割（110%で10%超過）

7割+2割=9割（10割から1割減）

要するに何が言いたいかと申せば、2割位は平気で変動するので、上振れ2割を勘定に入れると1割減速の9割経済ではいとも簡単に「元の木阿弥化」してしまうからです。「なし崩しの地滑り現象」が起きてしまう可能性があるからです。

だとすればこの際多大な犠牲を払うことをも覚悟で9割経済の「激震」ではなく

7割経済への意識転換、即ち天動地動逆転のコペルニクスの転換レベルで行わないと、その先に道がない様な気がするからです。

再度申し上げれば1割減速の9割経済というのは「完全なる希望的観測値以外の何物でもない」気がしております。

結局それは Go to Eat、Go to Travel 同様途中で待ったがかかり、方向修正を余儀なくされる結果しか招かない様な気もしております。

早い話、上記二つのキャンペーンには私共零細業者は「振り回されただけ」で終わっています。

それ位の事でしかないなら、むしろ

「2か月間完全休業してください。その間は全額保証します。そうして」

ここからが大切ですが

「そうして、3か月目には皆さんが安心してご商売ができる new normal 経済指針を、責任を以てご提示致します。それ迄の2か月、耐え忍んでくださいませ」

と言われた方が余程希望を持てる気がするのですが。

それが守られなければ、後は自然淘汰の波が押し寄せて来るだけでしょうけれど。

これは完全なる賭けです。丁半 fifty-fifty の risk-take せざるを得ない局面です。

しかし誰しも一生に一度位は否応なくそうした時が訪れるのがこれ又、世の「常（常態）」
かと。